３３

お　名　前	性　別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
河部（かわべ）　義通（よしみち）	男　性	８０歳	１４歳	一鍬田

豊橋二中（現豊橋東高校）３年生

①　８月１５日は，どこでどんなことをしていましたか。

豊川海軍工廠（こうしょう）の爆撃（ばくげき）の後片（あとかた）づけをしていました。学徒動員で，破壊（はかい）されずにすんだ寮（りょう）に入っていました。

②　終戦のことを，どこで，どのように聞かれましたか。

豊川海軍工廠（こうしょう）の学生寮（がくせいりょう）の広場へ集合し，「ラジオ放送」で知りました。

③　敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

「日本は神の国」，絶対負けることはないと教えられ，信じていたので「敗戦の報」を知らされた時には，頭が真っ白になりました。

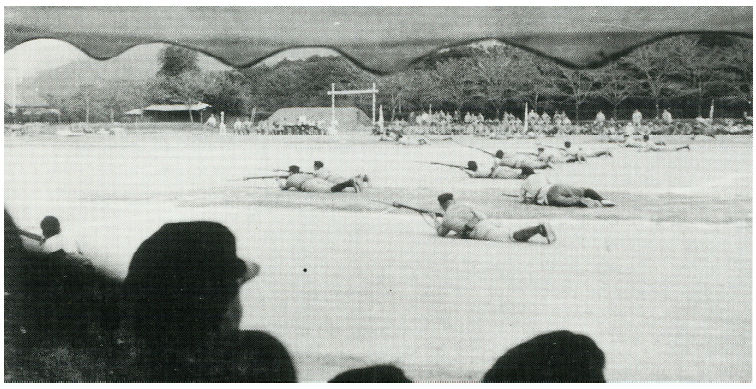
④　体験の中で，子どもたちに語り伝えておきたいこと

「豊川海軍工廠爆撃　～　級友１０名が……」

私は，昭和１８年４月，「清水野小学校」から「豊橋第二中学校」，現在の豊橋東高校に入学し，自転車で通学していました。

２年生になると，太平洋戦争も激（はげ）しくなり，「学徒動員」で当時東洋一といわれ，６万人が働いていた豊川海軍工廠で働くことになりました。

２年生前期は自宅（じたく）からの通学でしたが，後期になると，全員「学生寄宿舎」に入り，第一機銃（きじゅう）工場で３交代勤務（きんむ）で２０㎜機関銃（きかんじゅう）の生産に励（はげ）んでいました。



▲ **豊橋二中体育大会（昭和16年頃）**（写真：東三河の１００年より）

体育大会といっても国防競技が多く，軍隊の教練と変わらないものが多かった。「戦場運動」「城攻め」「行軍競争」などの種目があった。

学徒に対しては，それほどでもありませんでしたが，工廠での生活は，まるで軍隊でした。工員が作業中に雑談でもすると，鼻血が出て倒（たお）れるまでなぐられました。工場長は軍刀で容赦（ようしゃ）なくなぐっていましたし，工具でなぐる班長（はんちょう）もいました。ひどいことをすると思いましたが，工廠内では軍隊と同じように，上の位の人に対しては絶対服従でした。また，工廠内にいる時は外出禁止で，一一たりとも外へは出られませんでした。仕事の内容を外の人に話すのは，スパイ行為（こうい）とみなされましたので，絶対に話せませんでした。寮（りょう）の食事も，サツマイモ入りの麦ご飯で，「米のごはんを食べたい。」と思ったものでした。

８月７日，半年ぶりに外出許可が出て，初めて外へ出られることになりました。この時は飯田線が不通でしたので，級友の中西光雄君と９時過ぎに寮を出て，一鍬田へ歩いて向かいました。一宮駅近くまで来た時，空襲警報が鳴りました。地上１０～２０ｍの低空で戦闘機がやってきました。急いでサツマイモ畑へとびこんで逃げました。戦闘機の機銃掃射です。無警戒ですぐ近くのイモ畑で働いていた女の人は，機銃の弾にあたり亡くなってしまいました。

西の空を見ると，蒲郡方面の上空からＢ２９の編隊が，高度１万メートルで東へ向かって飛んできていました。２，３分おきに１２，３機の編隊で次々とやってきます。大恩寺に置かれた高射砲で撃った弾は全く届きません。高射砲の届く高さは，せいぜい７０００ｍぐらいだったのです。飛行機の下の方で破裂しました。

▲ **御津町大恩寺山の高射砲陣地跡**　昭和２０年初秋

（写真：東三河の一〇〇年より）

日本の戦闘機が，１機だけで向かっていきました。体当たりでもするつもりだったのでしょうか。チカチカっと光ったかと思うと，日本の戦闘機からすぐに火が出て，そのまま落ちていきました。前芝のあたりに墜落したそうです。くやしいけど，まったく歯が立たなかったんですね。

そのうち，Ｂ２９の編隊から「ヒュー，ヒュー」という音が聞こえ，バラバラと爆弾が落とされるのがよく見えました。そして，雷が落ちるようなものすごい爆音と煙で工廠は全く見えなくなりました。爆音は何度も続きました。約１時間で爆撃は終わりました。

歩いて家に帰ると，家では工廠がやられたので，両親は私が死んだものと思っていたようです。半年ぶりにもどった私を見て，「よく生きていた。」と，母は涙を流して喜んでくれました。

翌日８時に，寮で点呼がありました。寮は幸い無事でした。分かったのは爆死した学友が１０名，負傷者が１０数名でした。遺体の見つからない級友もいました。その日は，３年生の級友２００名のうち，７０名が日勤で勤務中でした。，私は夜勤明けで，工場を離れていたので助かったのです。紙一重の自分の幸運を思わずにはいられませんでした。

働いていた第一機銃工場を見た時は声も出ませんでした。あの立派な建物や工場は跡形もなくなっていました。爆弾の直撃で直径６ｍほどの大きな穴があき，水がたまっていました。工廠には，５０～６０人ぐらい入れるとても大きな防空壕が

ありました。私も訓練で何度か入りましたが，その防空壕は爆弾の直撃を受けていました。おそらく全員亡くなったと思います。工廠の正門を出ると南大通りに出ますが，そこは逃げる途中で爆風でやられ，大勢の人が亡くなりました。１５０機にも及ぶＢ２９の空襲は，本当にすさまじいものでした。

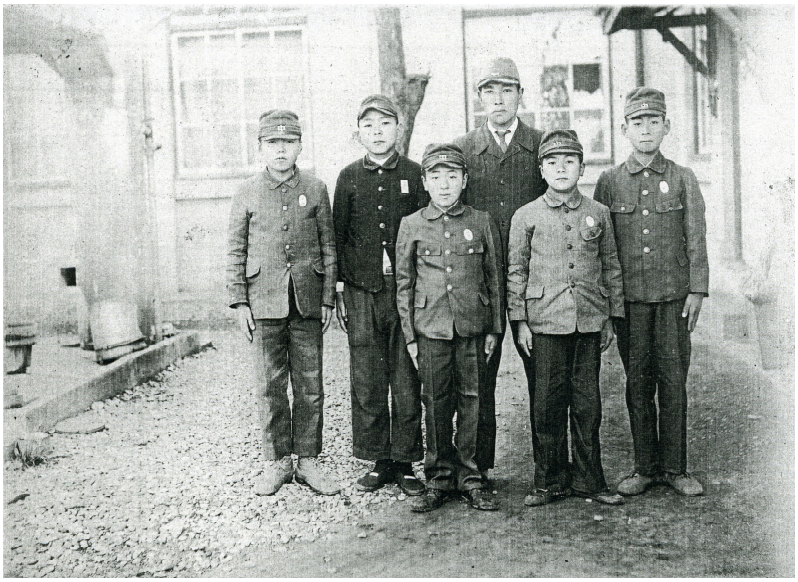
当時は，電話も電報もなかったので，直接死亡した学友の実家へ連絡に行きました。中宇利の安形元治君，一鍬田で２年生の中西英君の家へは中西光雄君が行き，賀茂の松井和敏君宅へは，私が自転車で連絡に行きました。お母さんが，「ごたげさま（ご苦労さま），アンタよかったのん。」と，涙ながらに言った言葉が忘れられません。和敏君は１日前に外出許可があり，その日の朝工廠にもどり，夜勤明けの私と交替したばかりだったのです。お母さんは，「和敏はお別れに来たんですね。」と話されました。彼の遺体は見つかりませんでした。私は，ただただ泣けるばかりで，言葉も出ませんでした。

一般の方でも，徴用で海軍工廠で働いていました。一鍬田では，北組宮下の小林恒夫さん，東組の森田福太郎さんが犠牲になりました。新城高等女学校から女子挺身隊として働いていた藤原よし子さんは，大けがをされ，長く後遺症にも悩まれたようです。工廠の話は，息子にも孫にもしていないと言っていました。心の傷が深すぎて，思い出したくないのでしょうね。

工場の片づけはしばらく続きました。学徒でも死体の片づけの手伝いをしました。すごい死臭の中での作業でした。仕事に追われているうちに，８月１５日を迎え，日本の敗戦を知り学校へ戻りました。

あれから６５年，日本は銃で一人も人を殺してはいません。これは，平和憲法のおかげで世界中に誇ってよいことだと思います。戦争は絶対にダメです。

昭和十九年になると、中学生や女学生も軍需工場に動員されました。海軍工廠には、国民学校高等科一年生の児童まで動員されていました。今の中学一年（十三歳）で動員されていたのです。



「写真提供　河部義通さん（左から三人目）」

▲ **豊橋第二中入学記念写真**　昭和 18 年 4 月　清水野小出身の同級生と